生物・生態系環境研究分野（総合）

委員会からの主要意見
現状についての評価・質問等
○学術性と政策性を兼ね備えた生物環境研究への取り組みが結実してきたように見える。自然共生社会実現のためにそれぞれの種や地域に着目して、多様な科学的データが集積されていることに加え、環境省との意見交換会により政策ニーズを吸い上げる努力をした点を高く評価できる。[年度・見込み] ○最大の進化はプレスリリースを前提とした研究活動が行われるようになったことかもしれない。[年度]
今後への期待など
○環境省との意見交換会の際のスタンスが重要であり、研究の成果を社会還元するために、行政施策の効果的な活用が期待される。[年度] ○生物多様性評価指標の標準化や生物多様性オフセットなどにおいて社会環境分野との連携を進めて欲しい。[見込み]

主要意見に対する国環研の考え方
生物・生態系環境研究分野では、生物多様性・生態系サービスの IPCC 版といわれる IPBES が活動を開始し、国際的な枠組みで科学と政策とのインターフェースの強化が推進されています。国環研も生物・生態系環境研究センターから３名の専門家が選出され、４つのワーキンググループで専門家会議等に参加しています。IPBES の総会、生物多様性条約科学技術補助機関会合、日中韓生物多様性政策対話等への出席を通して、環境省自然環境局とは必然的に協力体制が強化されてきました。研究者側も、プレスリリースする姿勢が身についてきました。今後は、こうした方向性を維持しながら、研究成果の社会還元を推進していきたいと思います。